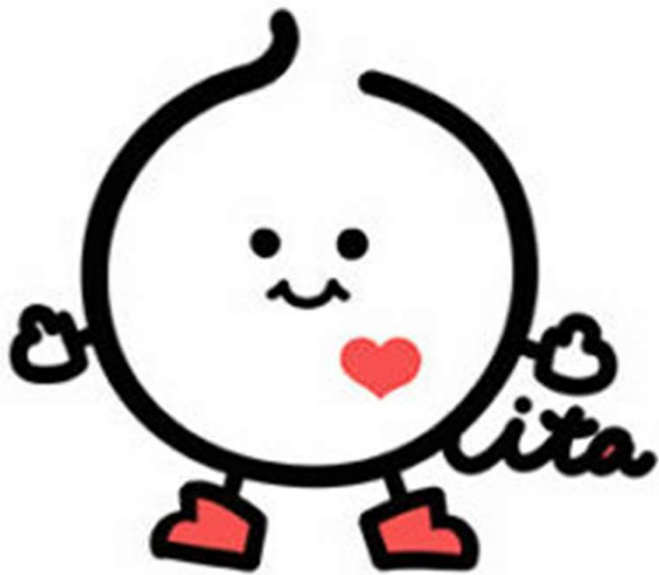


「地域とともにある学校づくり」

熟議のススメ



令和7年3月
竹田教育事務所

もくじ

①CSについて 現状の成果と課題

②大分県が目指す「地域とともにある学校づくり」

③Q&A

- ・「協働」するために大事なことは？
- ・熟議にするための工夫は？
- ・資料を見やすくするには？
- ・4点セットの策定や検証・改善をするには？
- ・教職員が理解するには？



④管内実践事例

⑤まとめ「熟議をするためのポイント」

① CSについて 現状の成果と課題（全国）

～2024.6.9第1回「三重町の子どもを育てる会」あり方検討委員会：野崎指導主事講義資料より抜粋～

<CS導入による成果>

- ・ 特色ある学校づくりが進んだ。
- ・ 保護者、地域による学校支援活動が活発になった。
- ・ 子どもの安全、安心な環境が確保された。
- ・ 地域と連携した教育課程（授業）が行えるようになった。

等



あてはまる課題は
ありますか？

<CS導入後の運営上の課題>

■議題の設定

- ・ 本来協議すべき学校運営に関する課題が提示されず、学校からの定型的な報告が中心。

■会議の開催が目的化

- ・ 決められた時期、回数の学校運営協議会を開催することが目的になっている。

■運営上の業務負担の偏り

- ・ CS委員の当事者意識が十分でない場合、会議運営・各種活動の負担が一部の者に集中している。

■地域学校協働活動との連携・協働（一体的推進）

- ・ 「コミュニティ・スクール」＝「地域による学校支援活動」であるといった誤解がある。
- ・ 学校が、地域学校協働活動の全体を担う主体にならなくてはならないのか、という懸念の声がある。

② 大分県が目指す「地域とともにある学校づくり」

(CS白書p1)

コミュニティ・スクール
(学校運営協議会を設置した学校)

- 学校と地域が目標や課題を共有し「地域とともにある学校」づくりを進めるための仕組み
- 学校と地域をとりまく課題解決のための仕組み（プラットフォーム）

大分県が目指す「地域とともにある学校」の姿

- 学校と地域がパートナーという関係の下、それぞれが**当事者として「参画」**しながら、共に子どもたちを育て、そのことを通じて共にこれからの**学校や地域を創る**という理念に立つ。
- 支援を超えて**目的を共有**し、長期的な**「双方向性」**のある展望を持った**「連携・協働」**を行うことができる関係を構築した学校。

■ 「地域とともにある学校」の運営に備えるべき要素

■ 熟議

多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す対話

当事者意識の向上

● 役割の明確化

■ 地域の参画を基盤とした連携・協働

教育の質の向上

● 教育資源の活用

■ 双方向性

地域課題の解決

● 学校のプラットフォーム化

● 「地域とともにある学校」に期待される役割

竹田管内ではこの部分をより進めていきたい

「協働」するために大事なことは？



(CS白書p6)

I 学校と地域が「協働」しよう

地域の方が
こんなことを
感じていません
か？

地域住民

- ○○小学校では、我が家の田んぼを利用して田植えの授業を行っています。
- 学校から毎年「お願いします」と頼まれるけど…

- 私たちは、毎朝「あいさつ運動」と「交通指導」を行っています。

地域住民

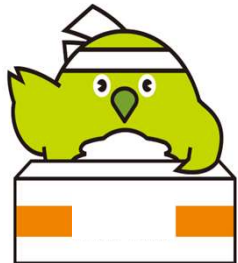


地域住民

- この活動は何のためにやっているのかの～？
- どんなことに役立っているのかの～？

- 「学力向上」「安全・安心な学校づくり」など、学校運営協議会を導入することでの効果は多様ですが、大切なことは、学校運営協議会や作業部会に関わる人たちが「何のためにこの活動をしているのか」を理解し共有することです。
- 「何のために」を共有することで、「お願い」と「頼まれ事への支援」といった貸し借りの関係ではなく、学校・家庭・地域の「協働」につながり、互いに有用感（成果）を実感することができます。
- 「学校教育目標（育成を目指す子ども像）」の達成に向けて、単なる学校支援に留まらず、「目標を共有した取組」を目指していきましょう。

CSコンサル



取組だけでなく、「めざす子ども像」や「何のためにこの活動をしているか」を共有することが大切です！

③ Q&A



今の説明について何か意見はありませんか？

何か意見っち言われてもなあ……



熟議をするためには
どんな工夫をしたらいいかなあ？



○協議時間を確保しましょう！

(工夫例)

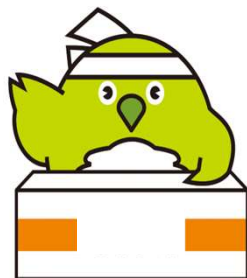
- ・学校からの説明を短く、端的に伝える。(10分程度にする等)
- ・資料を事前配布し、内容に目を通してきてもらう。
等

○問い方を工夫しましょう！

(工夫例)

- ・協議のテーマを焦点化する。

【例】「学習習慣を身につけるために、それぞれの立場で
できること」
「あいさつについて、今の課題と、より良くするため
にはどうすればいいか」
「地域と連携して職業についての学習をしたいが、
どんなことが考えられるか」 等



学校運営協議会は「協議の場」です。学校からの説明がメインにならないよう、時間配分や議題の設定等を工夫することが大切です。

〔参考〕以前の学校評議員会とCSの違いのイメージ

【学校評議員会】……学校評議員はご意見番のような立場
(評議員)「下校中道路に広がって歩いている」(課題)



(学校)「わかりました。指導していきます。」



【コミュニティ・スクール】……CS委員は学校運営の当事者
(CS委員)「下校中道路に広がって歩いている」(課題)



(CS委員)学校・地域・家庭で一緒に対応を考えていく
「地域が担うことは～～」
「家庭が担うことは～～」
「学校が担うことは～～」

③ Q&A



この資料をご覧ください。

字が小さくて見えんなあ…

字が多くてどこを見ればいいのかなあ



資料を見やすくするには
どうしたらいいかなあ？



○字の大きさやポイントになる部分の見やすさを
工夫しましょう！

(工夫例)

- ・資料を拡大する。
(学校評価の4点セット整理表をA4→A3に拡大して印刷)
- ・学校評価の4点セットの重点目標ごとにページを分ける。
(フォントを大きくする)
- ・4点セットについて、独自のシートで整理する。
(目標、取組、検証、改善点等)
- ・大事なポイントを、太字にしたり、下線をつける。
- ・表をグラフにする。

等

千歳小中の工夫例

2024年度 千歳小中連携型小中一貫教育「千歳っ子を育てる会」目標管理シート① 2学期評価
協働目標 未来志向で自ら学び 仲間と共に志の実現を目指す 千歳っ子の育

めざす姿	分	具体的な取り組み	結果	分析	今後の取組
課題解決に向けて学び続ける 子どもの育成	学校	・全教職員は各授業や集会等で児童・生徒に対して、ICTを活用したり、具体的にわかりやすい発問や指示をしたりする。	94%	教職員の具体的な取組の半定量的評価は1学期の100%から下がり、児童生徒の「授業の学習内容がわかる」の肯定的評価も97%から下がった。授業内容が1学期より難しくなっていることに加えて、基礎基本の定着が不十分で理解が難しくしていることも考えられる。	【小】話し合いの場面では、目的を明確にすることに引き続き取り組む。
		・授業者は授業内容により毎時間、めあて・課題、まとめ・振り返りを位置づける。 ・振り返りの視点を参考にして充実を図る。	93%		基礎基本の力の定着のためにスキルタイムを設定(小:毎日 中:週2)し、学習内容の定着をはかる。
		【小】授業者は、単元でつけた力にのっとり、目的をもって、考えを伝え合う場を設定する。	【小】100%	考えを伝え合う場(小学部)意味のある話し合いの場(中学部)を設定することは定着してきた。小学部では話し合う目的を明確にして場面を設定することが取り組	【中】授業の始めに復習タイムを設定し、継続的に取り組む。
		【中】授業者は単元でつけた力にのっとり、意味のある話し合いの場を設定する。	【中】100%		
家庭・地域	家庭	・保護者は、生活チェックの取組と、子どもと家庭での学習習慣づくりの確立をめざす。			
	地域	放課後TRY、読み聞かせ、職場体験や郷土学習等、児童・生徒の学びを支援するサポーターとして協力する。	100%	全ての教室で実施することができた。 稲刈り、郷土学習、農業体験、郷土芸能等でサポートしていた。	

字が大きくなるように
表を整理

「家庭」「地域」の検証・改善及び次学期の取組は部会で協議

③ Q&A

「学校評価の4点セット」の策定や検証・改善を、
学校運営協議会でするには、どうしたらいいかなあ？



○協議委員の方々が協議する場を設定しましょう！

(工夫例)

- ・育成をめざす子ども像等を話し合い、学校評価の4点セット策定につなげる。
(例)「どのような子どもを育てていきたいか」「そのために学校運営協議会でできること」等
- ・4点セットの重点的取組の家庭・地域の項目について、検証や次学期の取組を協議。
(例)「1学期の検証と、2学期の取組をどうすればよいか話し合ってください」等

竹田小の工夫例

めざす子ども像の共有

- ①第1回学校運営協議会后、「竹小っ子育成会」や保護者にアンケートを依頼 → 次の2点について意見を収集

竹田小校区でどのような子どもを育てていきたいか

- ・大きな声で元気よくあいさつができる
- ・自分で考えて行動できる
- ・思いを言葉にできる
- ・相手への思いやりをもつ
- ・感謝の気持ち

等

それを達成するために、保護者、地域、学校が協力してできること、やってみたいこと

- ・家庭が子どもにとって話ができる
- ・子どもが地域の人ともしっかりと関わる機会
- ・農業体験やいろいろな活動

等

- ②第2回学校運営協議会にて上記のアンケート集約をもとに協議
→活発な意見交換

目的の共有

主体者としての
意識の向上

→来年度の4点セット策定へつなげる

竹田中の工夫例

家庭が主体となる4点セットの検証

4点セットの「家庭」の取組指標『保護者は「我が家のメディアルール」と学校のiPad使用について、月に1回以上生徒とともに振り返りをする』について

家庭部会（PTA）の中で、現状をもっと知りたいという意見が出て、**保護者主体でアンケートを作成・実施**

「メディアルールについて毎月1回の振り返りを徹底すること」、「ルールを守るような啓発をしていく」ことを確認

2学期末に、家庭部会で、検証・見直し

主体者として検証・改善を実施

→3学期の4点セット策定へつなげる

③ Q&A

若い教職員から「学校運営協議会で何をしてるんですか？」って聞かれたけど……



学校運営協議会の取組について、教職員が理解するためにはどうしたらいいかなあ？



○教職員も当事者としての意識をもてるように、意義や内容を共有しましょう！

- (工夫例) ・協議会で出た意見や話し合いの様子を職員会議で共有する。
・「CS白書」等を用いて、CSについて共通理解を図る。
・CS通信を発行する。
・学校運営協議会に順番に参加し、共通理解を図る。

緑ヶ丘中の工夫例

教職員の学校運営協議会に対する意識の向上

昨年度まで……学校運営協議会に参加する教職員は3人

〔校長、教頭、教務主任〕

学校運営協議会でどんな協議がされているのか、
どんな雰囲気なのか、全職員に知ってもらいたい。

校長、教頭、教務主任以外に **2人程度、順番に他の先生も参加**

→地域・家庭の方々の生の声や思いを聞く
ことで、今後の取組への意欲につながる



学校において、全教職員による「地域とともにある学校」づくりの正しい理解が必要です。

久住小の工夫例

CS通信による共有

学校運営協議会後に、協議の内容や様子をまとめ、通信を作成

(地域・家庭)
学校運営協議会委員・
保護者に配布、また地
域の主要施設に掲示

(学校)
CS通信や関係資料
を用いて、校内研究
で学校運営協議会に
ついての研修を実施

久住小学校 学校運営協議会だより 第1号
「地域とともにある学校づくり」をめざして
令和5年6月15日 学校運営協議会

5月23日(火)に第1回学校運営協議会が、学校運営協議員6名(地域代表3名、PTA役員3名)が協議員としての出席により開催されました。学校・家庭・地域が協議できることを知やかな雰囲気の中で話し合い、「めざす子ども像」の達成につながる活動の方向性を定めました。一報紹介します。

学習支援部
(部長) 田中孝志さん 基盤めぐみさん 小澤
*親子ふれあいウォークラリーを実施する
*学校の外で学べる部分(読書・音楽・農業など)の支援をしていく
*やまの久住を知り、偉人の思いを知り、将来住みたいまちづくりを一緒に考える

環境整備部
(部長) 藤田亮太さん 工藤美さん 教頭
*読書作業を実施し、子どもの安全を守る
*親子ふれあいウォークラリーでこみひろいをして、里山を大切にすることを育む
*図鑑板を活用し、子どもの遊び出し情報などを集め、衣類着用の食事に努める

安全安心部
(部長) 志賀みつこさん 工藤俊子さん 校長
*下校時刻を把握して知らせ、夜守りや声かけをお願いし、集団登校している子どもの安全を確保する
*防災教育について、危険箇所を子どもとともに学び、一緒に考える機会を持つ

「めざす子ども像」の共有

今年度の「めざす子ども像」は学校・家庭・地域の思いを反映させることができました。皆様にはアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。それをもとに、令和4年度第3回学校運営協議会にて「久住の子ども」を思い描きながら話し合いを進めました。

令和5年度

「めざす子ども像」

- ・自ら学び努力する子ども
- ・郷土久住を愛する子ども
- ・社会性のある子ども

地域での多様な体験が子どもを豊かに育てます。そこで培われた子どもの力が地域に活力をもたらします。大人の一生懸命に働く姿や取り組む姿を見せることで、子どもは多くのことを学び取ります。これまでも多くの方にグスタヴィアチャーとしてご協力いただきました。また地域での見守り活動も担っていただいています。地域のの方々のお力添えから、教員も多くのことを学びます。今後とも、ご支援をお願いいたします。

郷土学での実践内容

〔郷土久住を愛する子ども〕

- 1・2年 ☆多まじ探検 ☆多地域での体験活動
- 3・4年 ☆多久住の自慢を築き、興味関心を持つ ☆多久住の自慢を紹介する方法を考え、取り組みを発信する
- 5・6年 ☆多「久住を支えている人」に敬意をあて、魅力について考える ☆多久住の魅力を知り、発信していく考える ☆多久住地域の課題を考え、豊かな未来のまちづくりを考える

*活動報告は、学校通信や第2号学校運営協議会でお伝えしていく予定です。

地域とともにある学校づくりの推進

豊後大野市:三重中校区の6校(三重第一小、三重東小、百枝小、新田小、菅尾小、三重中)
299名 217名 72名 39名 63名 406名

地域が主体的に取り組むコミュニティ・スクール(観点Ⅳ)

Point 1 地域の方が主体となり行うCSの活性化

Point 2 「社会に開かれた教育課程」の実現へ

令和5年度

三重町(6校合同)の学校運営協議会において、主体者意識を高め活動をさらに充実させるために、地域が主体となり発足



「三重町の子どもを育てる会」あり方検討委員会……6回実施

〔参加〕各学校の学校運営協議会委員(地域代表)各2～3名、PTA代表各1名、学校代表各1名等
〔内容〕【講義・研修】「コミュニティ・スクールとは?」 【ワークショップ】グループごとにKJ法にて〔協議から出た主な意見〕

地域が学校に望むこと

- ★学校の良さを大切に
- ★地域をもっと頼ってほしい
- ★情報発信(子どもの共有、行事等)
- ★豊かな体験の継承と創造

CSで大事にしたいこと

- ★地域、学校、保護者が同じ方向を向くこと
- ★様々な活動を通し子どもの生きる力を育む

CSの活動で取り組みたいこと

- ★体験活動等で、地域と子どものコミュニケーションを育みたい
- ★学校内にいつでも地域の方や保護者がいるのが自然の状態に

令和6年度

1. 三重町CSのコンセプト

R5の「あり方検討委員会」で決定

R6三重町CSのテーマ

「夢叶える MIE・CS

～いっしょにつなげる地域の未来～

M=三重町の子どもを、未来を見据えた活動をみんながつながって、みんなのため

I=いっしょにつくろう、愛(i)をこめて、私(I)がやる、私もできるとがある

E=笑顔で、笑顔につながる活動を、エンジョイする気持ちでエネルギーを分かち合う

2. 学校支援人財リスト ※「財」は財産を意味する

- ・ボランティアリストの整理(見直し)
- ・新たな人財リストの作成(発掘)
- ・三重町全体でのリストと支援の共有

<活用例> 三重町4小学校

【小学校クラブ活動】

- 学校運営協議会会長が講師の人材探し・依頼
- 講師はすべて地域の方
- コミュニティ・スクールの取組の一環として実施
- 教育課程に位置付け



3. CSルームの設置・活用

- ・活用の仕方について検討
- ・活用にあたっての要望・課題



<活用例> 三重第一小学校

【C・ルームの設置】

今年の4月に、校内に地域や保護者の方々が自由に使える「C・ルーム」を設置

【活用例①】

入学後の見守り活動の打ち合わせや待機場所

【活用例②】

地域の方による授業支援の際の打ち合わせ



令和7年度

小中一貫教育校:三重学園開校

「コミュニティ・スクール」と「小中一貫教育」を連動させて、子どもの夢の実現を後押しする!!

犬飼小・中

学校運営協議会における『熟議』の工夫

第3ステージにおける「地域とともにある学校」の推進は大きなテーマです。その中心には『熟議』が求められています。犬飼町学校運営協議会では、まず生徒会役員が、コロナ禍のなかで苦労や工夫を凝らした学校行事について、プレゼンが行われました。学校の様子が分かりやすく説明されました。この会では、今後の参考となるような協議の活性化と『熟議』が見られました。以下紹介します。

令和3年2月9日（火）犬飼町学校運営協議会



ワークショップの説明
青付箋：長所
赤付箋：短所

各部のワークショップの様子



「豊かな心育成部」まとめ発表・共有



「学習指導部」まとめ発表・共有

児童生徒の実態を交流するために
付箋に記入して貼っています

どんコミュニティネット組織図
(犬飼町学校運営協議会)

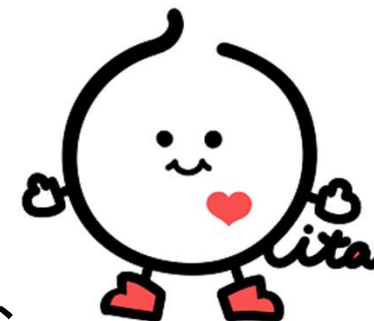
学びの支援組織

安心安全・ふるさと学習支援組織

学習指導部
(小・中教職員)豊かな心育成部
(小・中教職員)

学校の教育目標達成に向けて、自由な雰囲気では忌憚のない意見が出し合える会になっていました。また、十分協議の活性化がなされていました。今後学校としては、この会で出された意見や要望を分析し、次年度の「学校評価の4点セット」に落とし込む作業を実施します。ひとつの『熟議』のモデルになるのではないかと考えます。

熟議を進めるためのポイント



1. 目的を共有する

地域・家庭・学校が連携する具体的な目的や課題を明確化し、参加者全員で共有しましょう。

2. 効果的なファシリテーション

協議の目的やテーマ等、進行役と事務局で事前の打ち合わせをしましょう。
議題に応じて、適切な時間の確保をしましょう。
話し合いが一部の人に偏らないような配慮をしましょう。
(さらに、ホワイトボードや付箋、デジタル機器等を活用して、意見を視覚的に整理することも有効です。)

3. 成果を共有し発信する

熟議の結果や進捗状況を、通信やHP等で発信しましょう。